

令和3年度 水稻の病虫害発生状況

1 病害

(1) 育苗期病害

調査対象の育苗施設では、ピシウム属による苗立枯病、ばか苗病及びもみ枯細菌病がわずかに確認されました。発生量は苗立枯病が平年並、ばか苗病が平年よりやや多い、もみ枯細菌病が平年より少ない発生で、その他の病害は発生が確認されませんでした。

県全体としての発生は、平年よりやや少なくなりました（図1）。

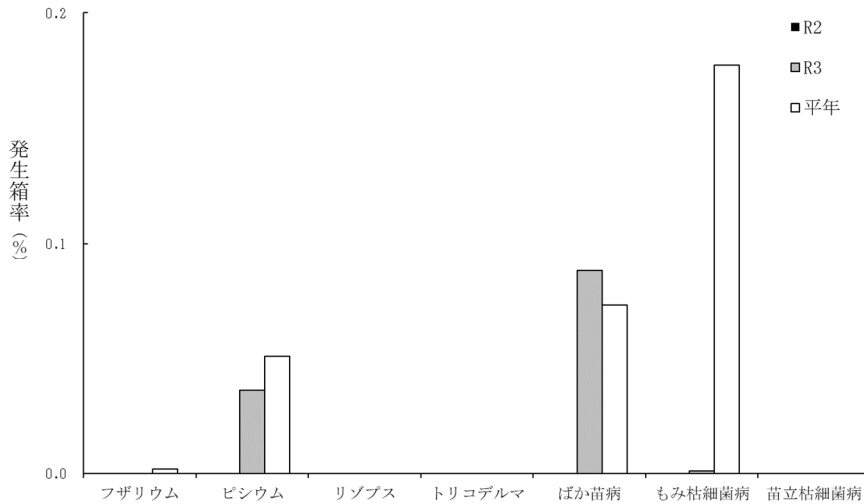


図1 育苗期における病害の発生箱率

(2) 葉いもち

巡回調査では、置き苗の葉いもちは6月中旬に会津若松市といわき市で発見されました。

BLASTAMによる感染好適条件は7月上旬及び下旬に広域で断続的に出現しました。

巡回調査による本田での初発確認日は、中通り地方及び浜通り地方で平年よりやや早い7月上旬、会津地方では平年より遅い8月上旬となりました。8月上旬の発生ほ場割合は県全域で平年並、発生程度はほとんどが「少」以下でした（図2）。

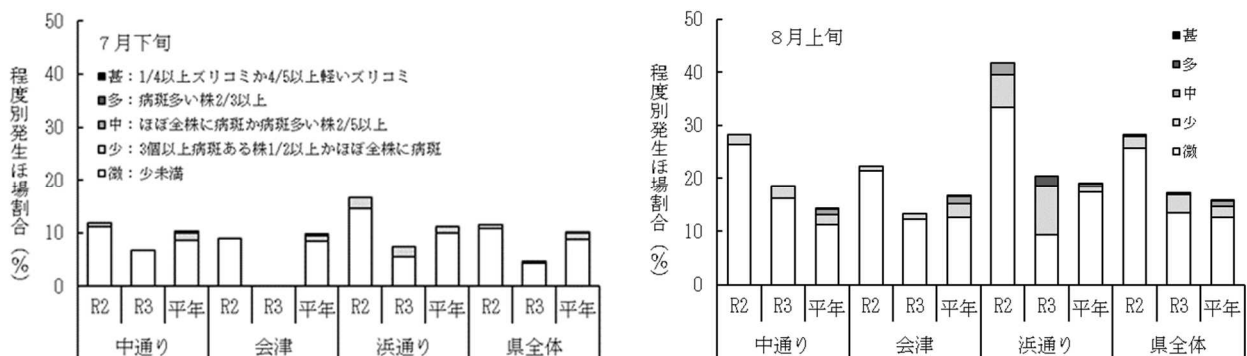


図2 葉いもちの程度別発生ほ場割合の推移

(3) 穂いもち

巡回調査による初発確認日は、中通り地方で平年並の8月中旬、会津地方及び浜通り地方では平年より早くなりました。

8月下旬から各地で発生を確認し、9月上旬の発生ほ場割合は県全域で平年よりやや高く、発生程度の高いほ場もみられました(図3)。

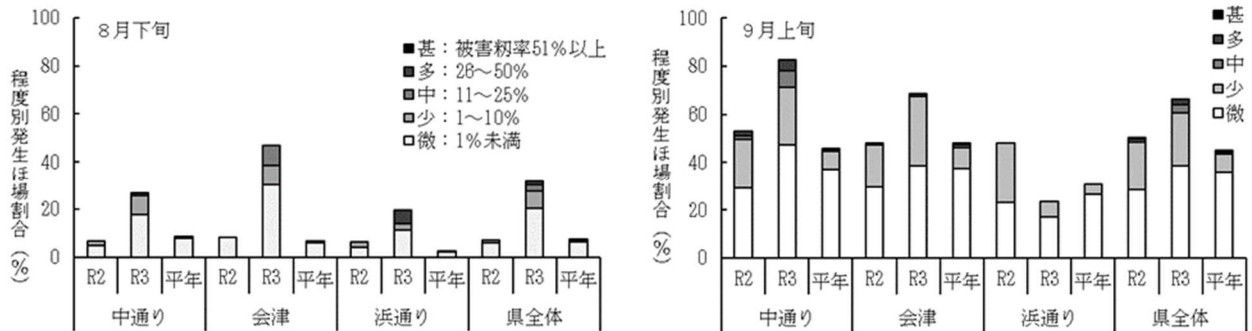


図3 穂いもちの程度別発生ほ場割合の推移

(4) 紋枯病

巡回調査による本田での初発確認日は、県全域で平年よりやや遅くなりました。

9月上旬の発生ほ場割合は県全域で平年より低く、発生程度はすべて「少」以下でした(図4)。

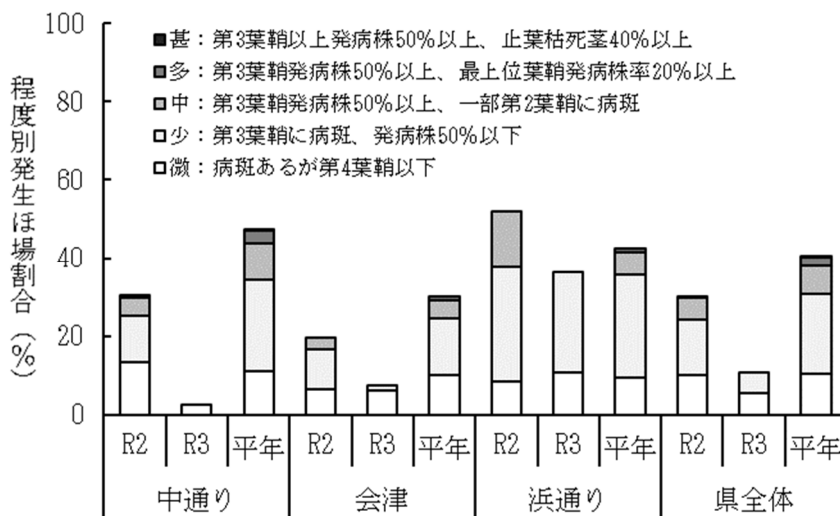


図4 紋枯病の程度別発生ほ場割合(9月上旬)

(5) 稲こうじ病

9月上旬の発生ほ場割合は中通り地方で平年並、会津地方及び浜通り地方で平年より低く、発生程度はすべて「少」以下でした（図5）。

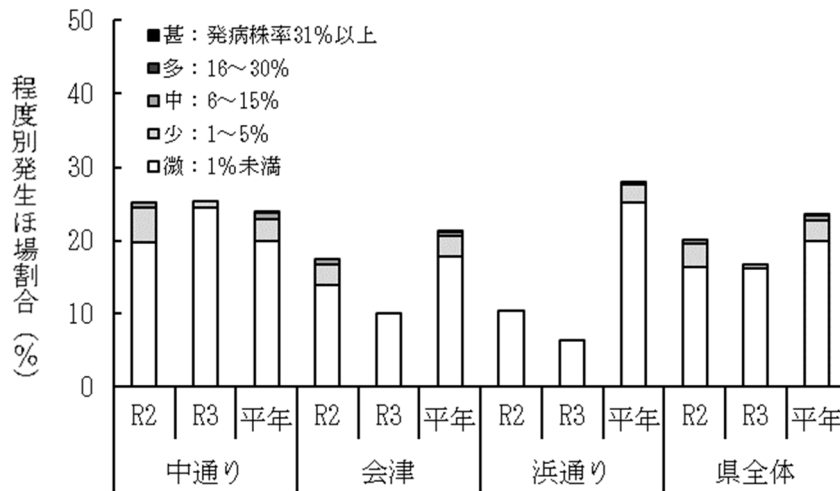


図5 稲こうじ病の程度別発生ほ場割合 (9月上旬)

(6) ごま葉枯病

8月下旬から各地で病斑が発見され、9月上旬の発生ほ場割合は、中通り地方及び会津地方で平年より低く、浜通り地方で平年よりやや高くなりました。

なお、発生程度は低く、穂枯れの発生はみられませんでした（図6）。

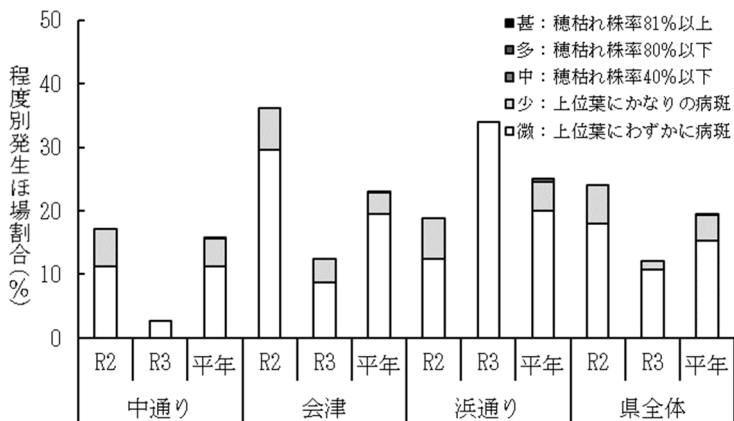


図6 ごま葉枯病の程度別発生ほ場割合 (9月上旬)

2 虫害

(1) イネミズゾウムシ

成虫の侵入時期は平年よりやや早くなりました。

6月上旬の発生ほ場割合は県全域で平年より高く、浜通り地方の一部では発生程度の高いほ場もみられました（図7）。

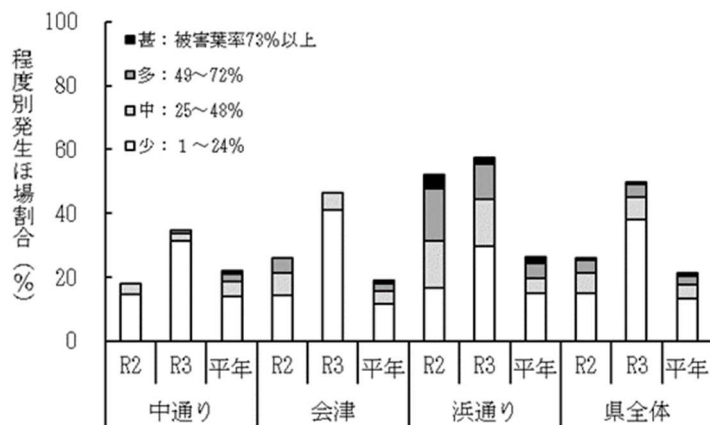


図7 イネミズゾウムシの程度別発生ほ場割合（6月上旬）

(2) イネドロオウムシ（イネクビホソハムシ）

5月下旬の成虫のほ場侵入地点割合は、中通り地方で平年並、会津地方では侵入が確認されず、浜通り地方では平年より高くなりました（図8）。

6月下旬の幼虫の発生ほ場割合は中通り地方で平年より高く、会津地方では発生程度「少」以上のほ場は確認されず、浜通り地方では平年よりやや低くなりました。なお、中通り地方の一部で発生程度の高いほ場がみられました（図9）。

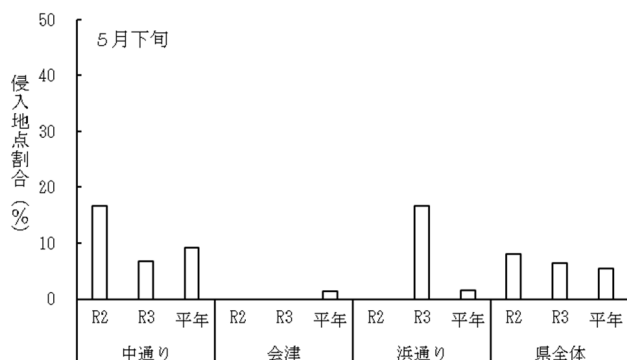


図8 イネドロオウムシの成虫ほ場侵入地点割合

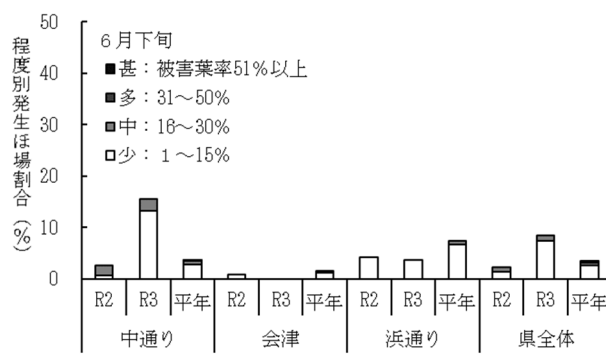


図9 イネドロオウムシの幼虫程度別発生ほ場割合

(3) イネツトムシ (イチモンジセセリ)

会津地方及び浜通り地方に設置した青色粘着トラップでは、第1世代成虫の誘殺のピークは平年並の7月中下旬にみられ、誘殺数は会津地方では平年並、浜通り地方では平年より少なくなりました(図10)。

巡回調査における発生ほ場割合は、7月から8月を通して県全域で平年より低くなりました(図11)。

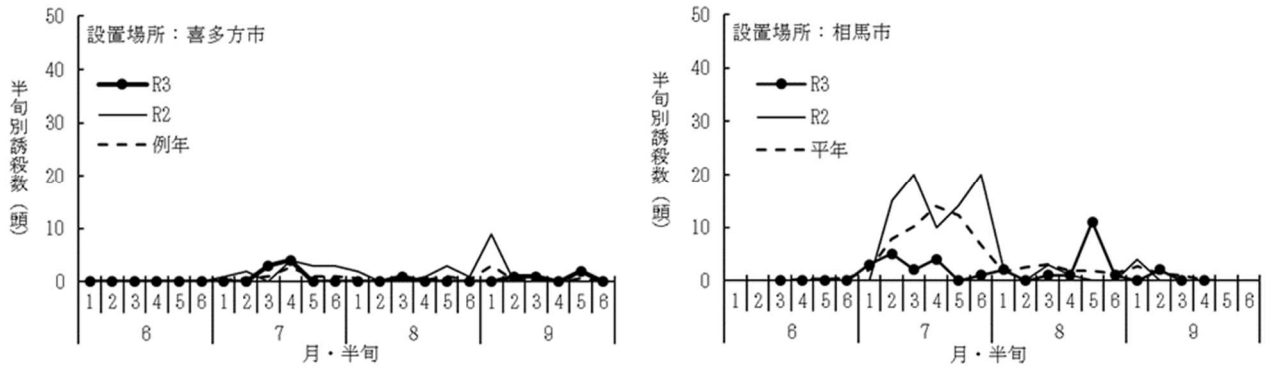


図10 イネツトムシの半旬別誘殺数の推移

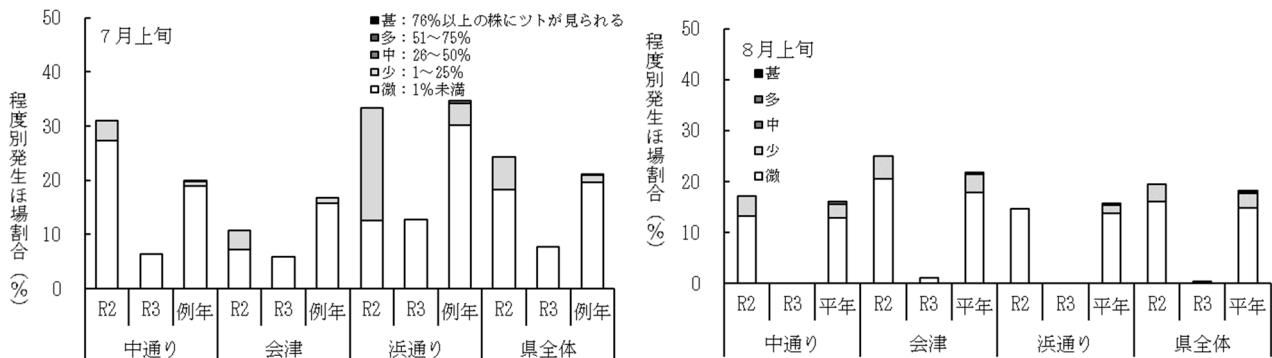


図11 イネツトムシの程度別発生ほ場割合の推移

(4) イナゴ類

発生ほ場割合は栽培期間を通して平年並でした(図12)。

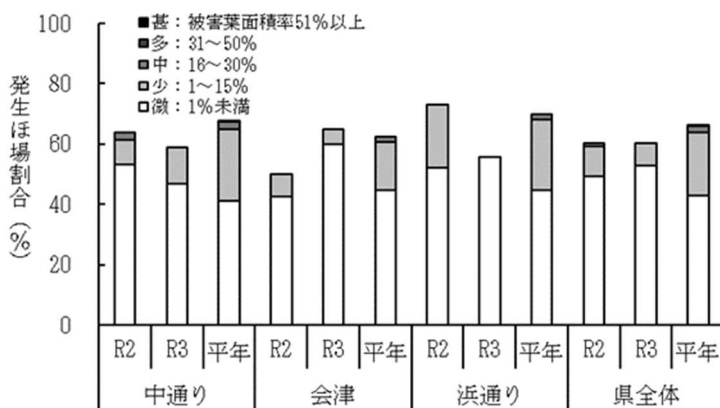


図12 イナゴの程度別発生ほ場割合(8月下旬)

(5) ニカメイチュウ (ニカメイガ)

福島市に設置したフェロモントラップでは、誘殺のピークは5月下旬、8月上旬にみられ、誘殺数は平年より多くなりました (図13)。

巡回調査における7月下旬の発生ほ場割合は平年より高くなりました (図14)。

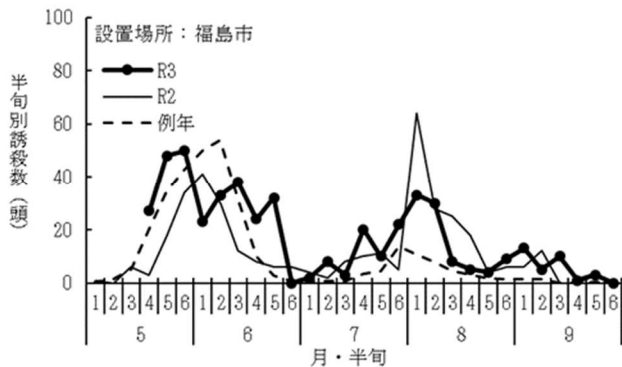


図13 ニカメイチュウの半旬別誘殺数の推移

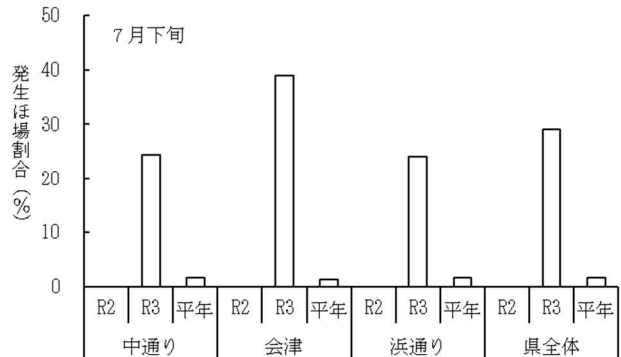


図14 ニカメイチュウの発生ほ場割合

(6) 斑点米カメムシ類

7月下旬の畦畔雑草すくい取り調査では、発生地点割合及びすくい取り数ともに中通り地方で平年並、会津地方と浜通り地方で平年より高くなりました (図15)。

本田すくい取り調査における発生地点割合は、8月は上下旬ともに中通り地方と会津地方で平年よりやや低く、浜通り地方で平年より高くなりました。9月上旬は中通り地方で平年並、会津地方と浜通り地方で平年よりやや低くなりましたが、浜通り地方では発生程度の高いほ場がみられました (図16)。

加害種別では、9月上旬の本田すくい取り調査で、アカスジカスミカメが約22%、アカヒゲホソミドリカスミカメが約9%、ホソハリカメムシが約6%、クモヘリカメムシが約7%の調査地点で捕獲されました (図17)。

令和3年産米の斑点米混入率は、中通り地方と会津地方で平年よりやや低く、浜通り地方で平年より高くなりました (図18、19)。

玄米の被害状況から推測された主な加害種は、中通り地方では主にホソハリカメムシとカスミカメ類、会津地方ではカスミカメ類、浜通り地方ではクモヘリカメムシとカスミカメ類でした (表1)。

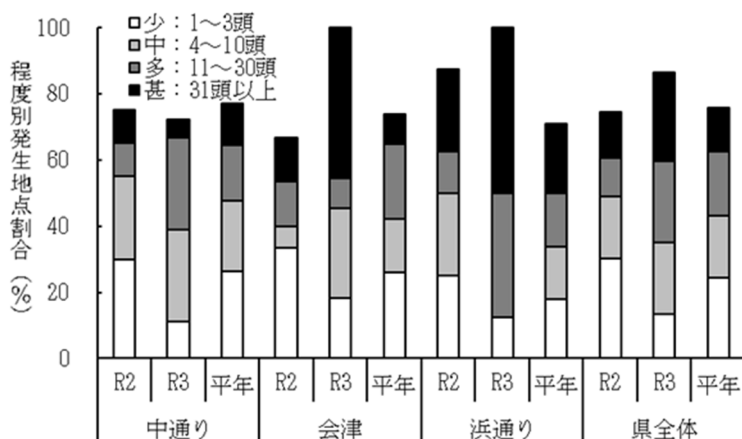


図15 斑点米カメムシ類の畦畔雑草における程度別発生地点割合 (7月下旬)

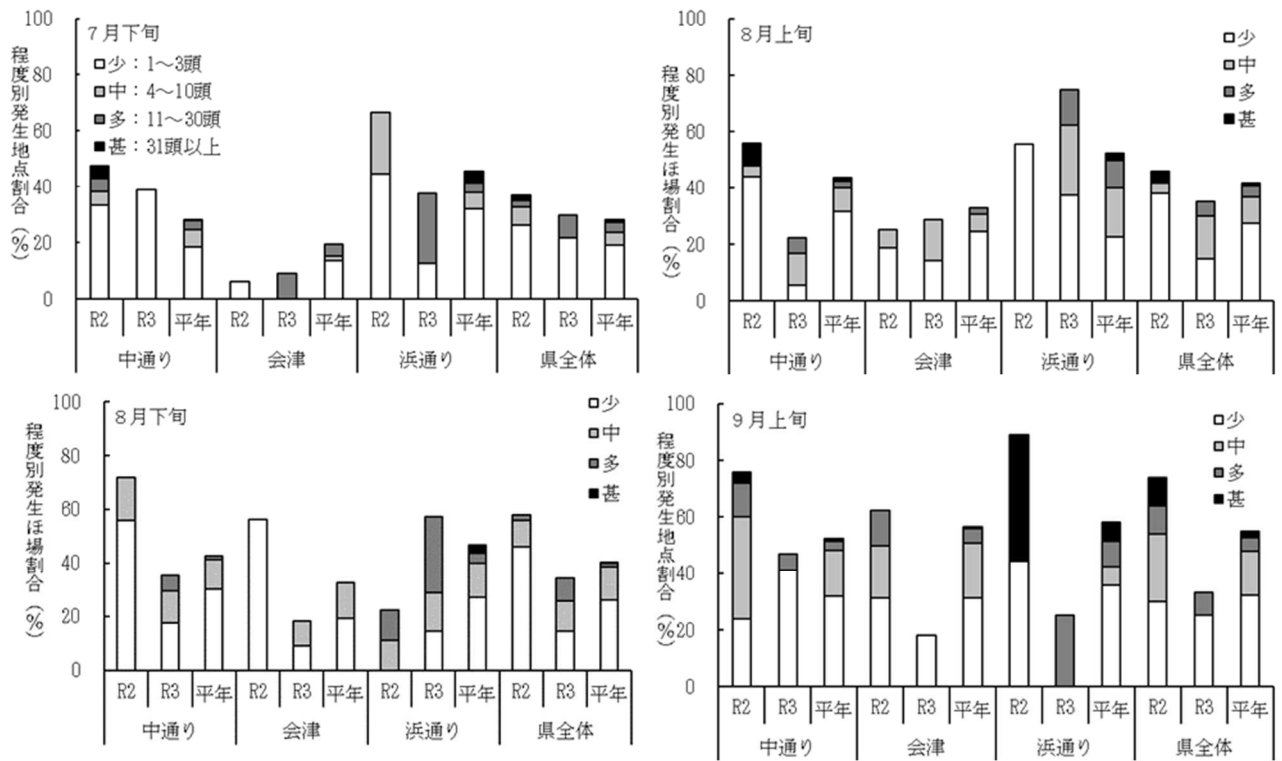


図 16 斑点米カメムシ類の本田における程度別発生地点割合の推移

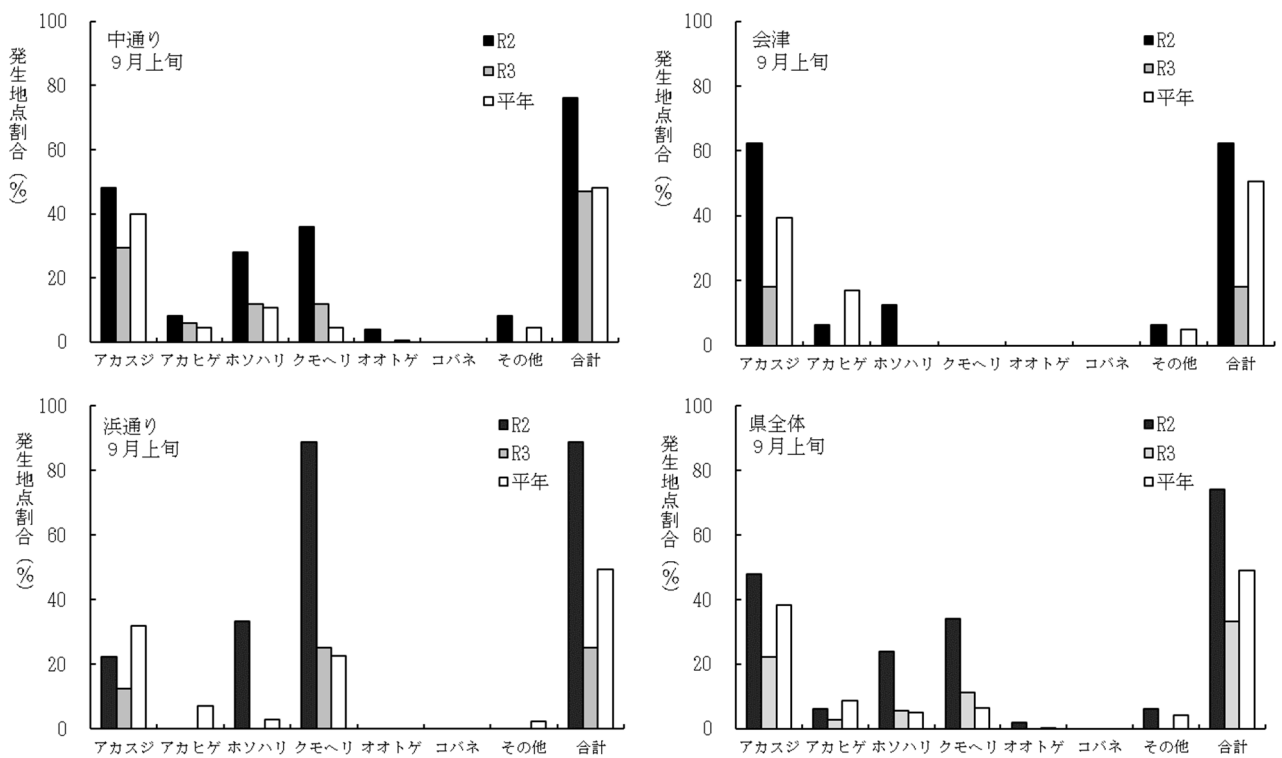


図 17 斑点米カメムシ類の本田における加害種別発生地点割合

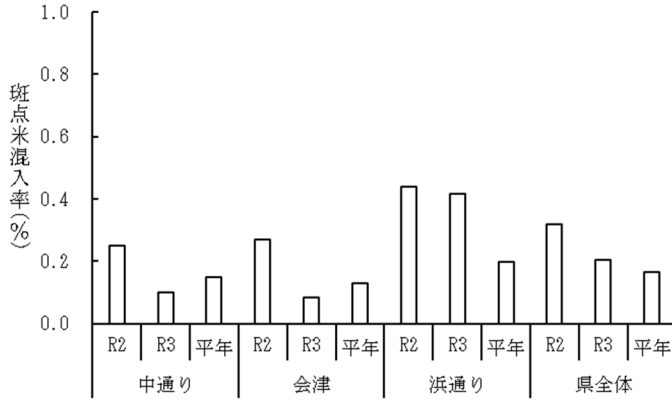


図 18 令和3年産米の斑点米混入率

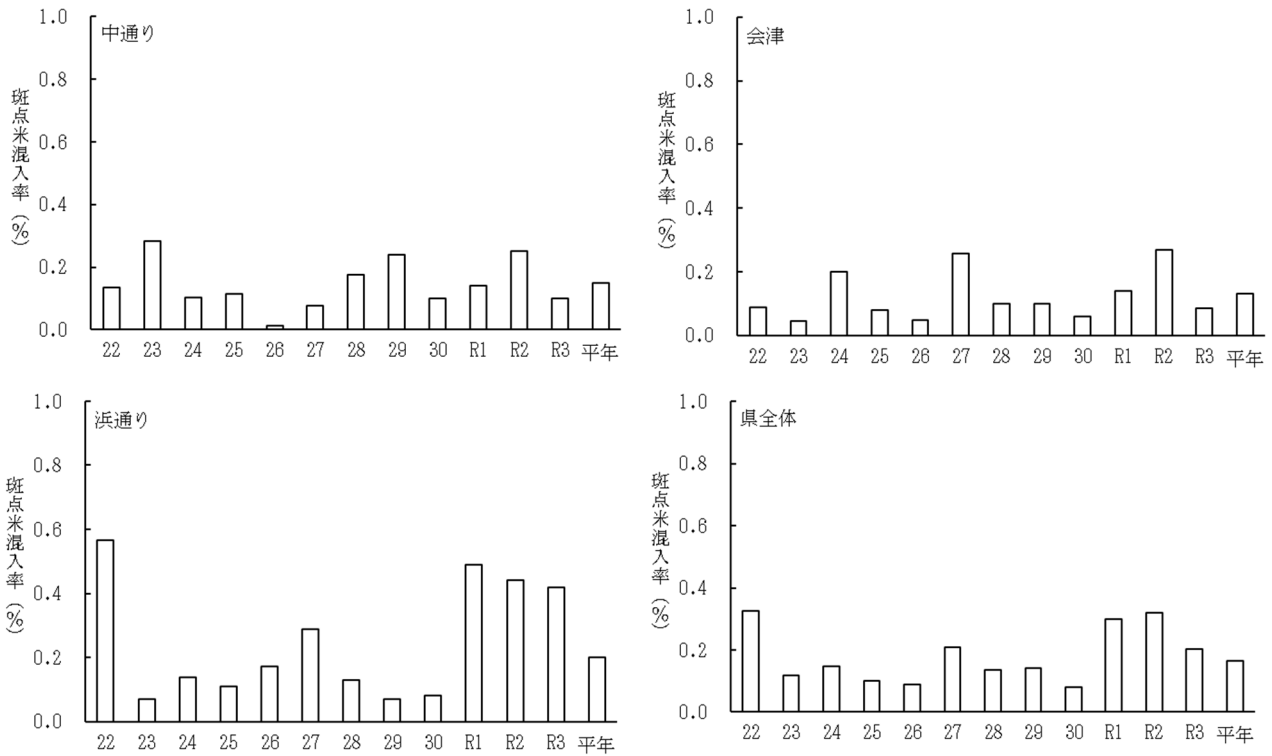


図 19 地域別斑点米混入率の推移

注) サンプル数は中通り5 (179,374粒)、会津4 (132,527粒)、浜通り5 (158,451粒)

注) 1サンプル当たり25株調査

表 1 玄米の被害状況から推測された斑点米の加害種割合

	カスミカメ類 (%)	大型カメムシ類 (%)
中通り	61.0	39.0
会津	88.4	11.6
浜通り	48.0	52.0
県全体	55.2	44.8

注) サンプル数は中通り5、会津4、浜通り5